

ワークショップ1

支援者のための赤鼻ワーク「自分も相手も大切にすることってどうなの？」

副島 賢和先生（昭和大学さいかち学級担当）

NHKプロフェッショナル仕事の流儀「涙も笑いも、力になる」や、大泉洋さん主演のNTVドラマ「赤鼻のセンセイ」のモチーフとしても御存知の方も多し、赤鼻の先生こと副島賢和先生が講師です。スペシャルキッズサポーターの集いの第1回で講演いただきましたが、なんと2019年は、少人数のワークショップをして頂きます。病気がある子どもを担当している皆さま「赤鼻ワークo(´・●・`)o」へ奮ってご参加下さい。

ワークショップ2

治癒が望めない病気をもつ子どものlifeを支えるために私たちにできることパート2

余谷 暢之先生（国立成育医療研究センター総合診療部 診療部長）

2018年の集いでは、治癒が望めない病気をもつ子どもの生活を紹介しながら、その子にかかわり、寄り添うために私達ができることをみなさんと考え、たくさんの意見をお聞きし良い刺激になりました。2019年は、さらに多様な子どもの生活とニーズを紹介し、参加者のみなさまと「私達に何ができるのか？」を考える機会になればと思っております。医療者のみならず、教育、福祉、保育、一般ボランティアの皆様など、いろいろな立場の方から参加下されば幸いです。

ワークショップ3

子どもの心を豊かにする「本の力」を考える

大船 めぐみ先生（子ども・本・文化を考える会代表）

幼児期に出会った本が、子どもたちの心をどんなに豊かにするのか……。長年にわたって、昔話・絵本・わらべうたなどを子どもに届けている講師の大船めぐみさんとともに、本の選び方、読み方、本の届け方などを考えます。

ワークショップ4

「カラフルランタン」

たけうち ちひろ先生（きりえ・絵本作家）

切り絵を使ってカラフルなランタンを作ります。お子さんから大人の方までどなたでもご参加いただけます。（ハサミを使える年齢から）



ワークショップ5

「こねこねアロマ石けん」

坂下 典子先生（アロマセラピーボランティアグループ グラス会代表）

簡単な手ごねせっけんです。こねこねして、粘土遊びのように楽しく石けんが作れます。子ども達の発想、創造力はとても素晴らしくいつも感動しています。手先を使ってこねることで、指先の運動にもなります。



ワークショップ6

子どもを支える、親を支えるー「支える」ってなんだろう!?

松岡真里先生 (京都大学大学院医学研究科 准教授)

スペシャルなキッズをサポートしたい!とっておられるみなさんと共に、「サポートする」=「支える」って何だろう?そのことを改めて考えつつ、私たちにできることを紡いでいく機会になればと思っています。

ワークショップ7

一緒に遊ぼう!～ダンス/ムーブメント療法の有効性～

高橋秀樹先生 (Dance De Laugh (ダンス デ ラフ) 代表)

発達障害、知的障害、視覚障害などを伴うお子さんへのダンス/ムーブメント療法 (Dance/Movement Therapy以下DMT) の紹介やDMT遊具や音楽を使用したDMT体験など、みんなと一緒にワイワイ楽しみながら参加できるワークショップです。



ワークショップ8

スペシャルキッズが、手や身体を使ってあそべるために

黒澤淳二先生 (大阪発達療育センターリハビリテーション部部長 作業療法士)

スペシャルキッズへの長年にわたるセラピー経験と療法士さん・多職種の方々との豊富な交流経験がある黒澤さんから、スペシャルキッズが「自分でできた!」と感じられる工夫について、実際の体験を通して分かりやすく教えていただきます。

ワークショップ9

えがお, 考える, つながる ~イキイキ・キラキラ・ルンルンの巻~

村上公也先生 (キミヤーズ塾 塾長)

えがおでイキイキ・キラキラ・ルンルンできる今が大事です。子どもたちと指導者が互いに敬意をもつための手品の実演など, 特別支援学級の具体的な教材・教具を通して, つながりの大切さを考えたいと思います。

ワークショップ10

「桜のあかり」作り

西谷美智子先生 (大和大学総合リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師)

桜の花のあかり作りをします。また「あかりバンク」による病院や施設に手作りのあかりを届ける活動や、医療的ケア児の在宅介護をされているお宅の照明環境改善の取り組みについて紹介します。

